

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 31 日現在

機関番号： 32702
 研究種目： 基盤研究(C)
 研究期間： 2010～2012
 課題番号： 22520400
 研究課題名（和文）言語の普遍性と言語間変異の理論的研究：日本語の「とりたて」現象から
 研究課題名（英文）A theoretical approach to the universality and variation of language
 based on the descriptive analysis of *toritate* in Japanese

研究代表者

片岡 喜代子 (KATAOKA KIYOKO)
 神奈川大学・外国語学部・准教授
 研究者番号：80462810

研究成果の概要（和文）：日本語のシカ、モ、キリ等による「とりたて」と呼ばれる現象を通して、論理的な主部と述部を構造基盤とする「叙述」による構造構築を日本語の個別特質として提案し、名詞と動詞の格関係により構造が構築される欧米語との違いを解明した。普遍的言語機能の説明を目指す生成文法理論を基盤として、言語現象を普遍的な特質と個別特質の相互作用の表れとして捉え、両特質の識別を試み、現象説明の理論仮説を提示して、その科学的検証を目指した。

研究成果の概要（英文）： We have proposed, based on the descriptive analysis of the particles of *toritate* (topicalization) in Japanese, that Japanese has a language-particular property in the structural construction; sentences can be constructed based on the structural relation of *Subject-Predicate*, which will form *Predication*, while European languages such as English and Spanish require a structural relation between noun and verb in terms of *Case*. We have aimed to demonstrate that the surface differences come from interactions of universal properties and language-particular ones.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010 年度	500,000	150,000	650,000
2011 年度	500,000	150,000	650,000
2012 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,500,000	450,000	1,950,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・言語学

キーワード：普遍的な特質 個別特質 言語能力 構造構築 叙述 否定

1. 研究開始当初の背景

(1) 理論的背景：代表者が研究当初より理論基盤としてきた生成文法理論研究は、人間が普遍的に持つ言語を司る能力の解明を目的とする。言語の産出・理解の基盤となる構造を与える計算システムとしての言語能力が、

人間には普遍的に備わっていると仮定し、そのシステム解明の説明理論の構築を目指す。普遍的である故に、それが与える構造的特質はすべての言語に共通する特質となる。それら普遍的な特質が、語彙的特質を中心とする個別言語の特質と複雑に合い絡み合っており、実際の言語現象では様々な様相を見せると考え

られている。

(2) 普遍的特質と個別的特質の解明：欧米語の現象分析に基づき発展してきた構造構築理論に対し、日本語個別的特質を解明して理論の発展を促したのが Fukui 1986 や Kuroda 1988 の研究である。それら先行研究の成果を踏まえ、更なる個別特質と普遍特質の解明で理論を発展させる必要がある。

(3) 代表者と分担者の研究成果：代表者は、否定関連現象の記述分析の蓄積に基づき、否定現象における普遍特質と個別言語特質を解明する過程で、動詞を中心とする「叙述」のあり方の言語間の相違を捉えつつあった。分担者は、日本語の「係結」の記述や歴史的観点からの分析、また現代日本語の「とりたて」現象の記述・理論分析の蓄積があり、それに基づいて日本語独自の「叙述」構造の考察を続けていた。両者の成果を基に、「叙述」構造の日本語個別的特質解明を目指し、それと同時に、構造上の普遍性もより明らかにし、言語の構造構築理論そのものの発展を目指していた。

2. 研究の目的

(1) シカ句の分析から始めた「とりたて」現象の記述成果を基に、日本語個別の文構造の特質を明らかにする。同時に普遍的特質との識別を行うことで、文構造構築における個別特質と普遍性を解明する。

(2) 日本語のとりたてを論理的主部と述部を基盤とする「叙述」の構造と捉える分析を提示する。主部と述部が統語的關係（構造上の姉妹関係）を築くことで、構造構築が成される。叙述を基盤とする構造関係に動機付けられた文構造の構築が、日本語では可能であることを示す。

(3) 従来、文における名詞と動詞の關係付けは、その名詞が動詞に要求される必須要素（項名詞句）であるか否かの關係と、名詞が動詞に対して担う意味役割の關係、及びそれらに基づく格關係により保証されると考えられていた。その關係に支えられてこそ、文の構造が構築されると捉えられてきたのである。しかしながら、そのような關係付けを必要とする欧米語とは異なり、それを必要としないのが日本語個別的特質であると Fukui 1986 や Kuroda 1988 では捉えられた。その分析をより発展させて、格による一致の關係でなく、叙述による統語的關係による構造構築を日本語個別の構造特質として提案する。その上で、個別の構造特質が普遍的構造特質と

どのように相互作用して、文構造の構築がなされるかを解明する。

3. 研究の方法

普遍特質解明には、言語現象を観察して個別的特質を見極め、普遍特質との線引きが不可欠であることを念頭に、現象分析、理論仮説の提示、仮説の検証という科学的手順で研究を進めた。具体的には以下である。

(1) 更なるとりたて現象を記述し、再検討する。同時に、叙述の理論的概念を確立し、それを前提として、とりたてが叙述を成すことを示す議論を提示した。

(2) その検証が可能な形で、叙述による文構造の分析のための理論仮説を提示して、叙述を基盤とする文構造構築という説明理論を提案した。

(3) 説明理論がより一般的で更なる現象も予測することを示すため、叙述と否定の相関や、叙述を成すと思われる他の表現、とりたての古い形とも言える「係結」やその現代語における表れ等の現象分析にも適用を試み、分析の検証を行った。経験的基盤により仮説の検証を進め、必要に応じて修正を行うことで、理論の精度を高め一般性を得ることを目指した。

4. 研究成果

(1) 「とりたて」から始めた日本語文構造の特質の解明を基に、文構造構築における個別言語的特質と普遍的側面の解明を進め、生成文法理論そのものの発展を促すべく、構造構築理論を提示した。

(2) その理論仮説により日本語の更なる現象分析を行い、現代日本語の「とりたて」現象や他の類似の現象のみならず、「係結」を成す助詞の歴史的変遷の分析にも応用を試みた。また日本語の否定述部のあり方を記述し分析することで、日本語否定文の個別特質も解明されつつある。

(3) 理論構築の知見を他言語へ応用する試みとして、スペイン語否定現象の分析を行った。否定述部のあり方という観点から、日本語否定現象との相違を明らかにし、普遍的現象との識別を試みた。日本語・スペイン語における否定関連現象の対照研究として学会等で発表し、論文にもまとめている（5を参照）。

(4) 長年、代表者が分析の理論基盤の拠り所

としてきたのが、米国南カリフォルニア大学言語学科の傍士元氏による科学的仮説演繹法である。傍士氏を招いて、他の研究者も含めたワークショップを行い、長時間の議論を重ねることで、科学的手法による仮説の検証が可能な形で、理論構築を行った。同時に、その検証作業も試みてきた。それらの議論を踏まえて、学会発表や論文での発表を行った（5を参照）。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 10 件）

- (1) Asako Miyachi. 'Mermaid Construction in Old and Early Middle Japanese.' Tsunoda, Tasaku (ed.) *Adnominal Clauses and the 'Mermaid Construction': Grammaticalization of Nouns*. (NINJAL Collaborative Research Project Reports.), 13-01, 2013.4, 179-220. (査読あり)
- (2) 宮地朝子 「書評論文 青木博史著『語形成から見た日本語文法史』(ひつじ書房, 2010年)」、「『日本語文法』くろしお出版 12(1)、2012.3、30-138. (依頼かつ査読あり)
- (3) Kiyoko Kataoka. Review. 'Expression and Interpretation of Negation: An OT Typology.' By Henriëtte de Swart, *Studies in Natural Language and Linguistic Theory* 77, Springer, Dordrecht, Heidelberg, London, New York, 2010, xviii+279pp. *English Linguistics* 29: 1, 2012, 155-165. (依頼論文且つ査読あり)
- (4) 片岡喜代子 「言語の普遍的原理と個別特質—日本語とスペイン語の否定関連現象から—」 *KLS 32. Proceedings of the ThirtySixth Annual Meeting* (June 11-12, 2011). Kansai Linguistic Society. 2012, 61-72. (査読あり)
- (5) 片岡喜代子 「否定関連現象から見た日本語とスペイン語」東京外国語大学国際日本研究センター『日本語・日本学研究第2号』2012、113-130. (依頼論文)
- (6) 齊藤学、崔榮殊、戸次大介、片岡喜代子、川添愛 「言語情報の確実性アノテーションのための韓国語の様相表現の分類—韓国語の証拠推量表現と認識的推量表現—」、中華日本研究第3号、2011、17-40. (査読あり)
- (7) 片岡喜代子・宮地朝子 「ホカとシカの意味特質と統語的条件」日本言語学会第142回大会（2011年6月18、19日）予稿集 2011、170-175.

(8) 片岡喜代子 「否定極性と統語的・意味的条件—日本語記述に基づくスペイン語否定現象再考—」 *HISPÁNICA* 第54号 日本イスパニヤ学会、2010、43-65. (査読あり)

(9) 川添愛・齊藤学・片岡喜代子・崔榮殊・戸次大介 「言語情報の確実性アノテーションのための様相表現の分類」九州大学言語学研究室編『九州大学言語学論集第31号』、2010.8、109-129. (査読あり)

(10) 宮地朝子 「(書評) 沼田善子著『現代日本語とりたて詞の研究』」「『日本語の研究』6(3)、2010.7、144-150. (依頼)

〔学会発表〕（計 7 件）

- (1) 宮地朝子 「名詞の形式化・文文化と複文構成—ダケ・キリにみる—」、国立国語研究所共同研究プロジェクト「複文構文の意味の研究」共同研究集会（プロジェクトリーダー：益岡隆志）、2011年9月11日、於：名古屋大学（依頼）
- (2) 片岡喜代子 「否定関連現象から見た日本語とスペイン語」、『外国語と日本語の対照言語学的研究』第4回研究会 東京外国語大学国際日本研究センター対照日本語部門、2011年7月16日、於：東京外国語大学（招聘発表）
- (3) 片岡喜代子・宮地朝子 「ホカとシカの意味特質と統語的条件」、日本言語学会第142回大会、2011年6月18日、於：日本大学文理学部（査読あり）
- (4) 片岡喜代子 「言語の普遍的原理と個別特質—日本語とスペイン語の否定関連現象から—」、関西言語学会第36回大会、2011年6月12日、於：大阪府立大学中百舌鳥キャンパス（査読あり）
- (5) 川添愛・齊藤学・片岡喜代子・崔榮殊・戸次大介 「様相・否定・条件表現の言語学的分析に基づく確実性判断のためのアノテーション済コーパスの構築」、言語処理学会第17回年次大会(NLP2011)、2011年3月7日、於：豊橋技術科学大学言語処理学会（大会優秀発表賞受賞）
- (6) 宮地朝子 「日本語の体言締め文の歴史」、国立国語研究所共同研究プロジェクト第4回共同研究集会、2010年10月16日、於：国立国語研究所（国際）
- (7) 宮地朝子 「山田孝雄「喚体句」着想の淵

源」、名古屋大学グローバル COE プログラム第9回国際研究集会「ことばに向かう日本の学知」、2010年9月10日、於：名古屋大学

〔図書〕(計7件)

(1) 宮地朝子 「山田孝雄『日本文法論』のテキスト布置」、松澤和宏編『テキストの解釈学』水声社、2012.3、319-350.

(2) 釘貫亨・宮地朝子編 『ことばに向かう日本の学知』ひつじ書房、全320頁、2011.11.

(3) 宮地朝子 「山田孝雄「喚体句」着想の淵源」、釘貫亨・宮地朝子編『ことばに向かう日本の学知』、ひつじ書房、2011.11、49-77.

(4) 宮地朝子 「名詞キリの形式化と文法化」、青木博史編『日本語文法の歴史と変化』、くろしお出版、2011.11、215-238.

(5) 片岡喜代子 「否定極性と統語的条件」、『否定と言語理論』、加藤泰彦ほか編、開拓社、2010.6、118-140.

(6) 宮地朝子 「日本語否定文と文法化—シカ類の変化と変異を中心に」、『否定と言語理論』、加藤泰彦ほか編、開拓社、2010.6、170-192.

(7) 宮地朝子 「ダケの歴史的変化再考—名詞の形式化・文法化として」、『日本語学最前線』、田島毓堂編、和泉書院、2010.5、425-446.

6. 研究組織

(1) 研究代表者

片岡 喜代子 (KATAOKA KIYOKO)
神奈川大学・外国語学部・准教授
研究者番号：80462810

(2) 研究分担者

宮地 朝子 (MIYACHI ASAKO)
名古屋大学・文学研究科・准教授
研究者番号：10335086